



瀬戸内・石積み練り塀の祝島^{いわいしま}

波高い周防灘。その東端に位置する祝島は山口県上関町^{かみせきまち}の孤島である。周囲約十三キロの島に四百五十人程が住み、漁業と農業で生活を支えている。この島は古代から海上を行き交う船の安全を守る神の島として崇められてきたと島民は語る。島の南側は黒潮に洗われ、巨岩や奇岩が雄大なスケールの光景を見せて美しい。海岸は岩礁がなく、タイ、サヨリ、ヒラメ、タコなどの魚類の宝庫でもある。

港から数十メートルも歩けば、石積みの練り塀が眼に飛び込み、漁家の家並みを一層引き立ててくれる。私は日本列島の街並みを取材し続けているが、石と漆喰^{しっくい}が練り合わされた造形美に目を奪われてしまった。冬季の強い季節風を防ぐためばかりか、防火、防潮の役割を果たすのだという。未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選に入っているが、さらに伝統的建造物群保存地区に指定されるよう、上関町教育委員長の橋部好明さんは「これから文化財としても貴重ですから申請を出したい」と語る。

(写真・文 樋口健二)